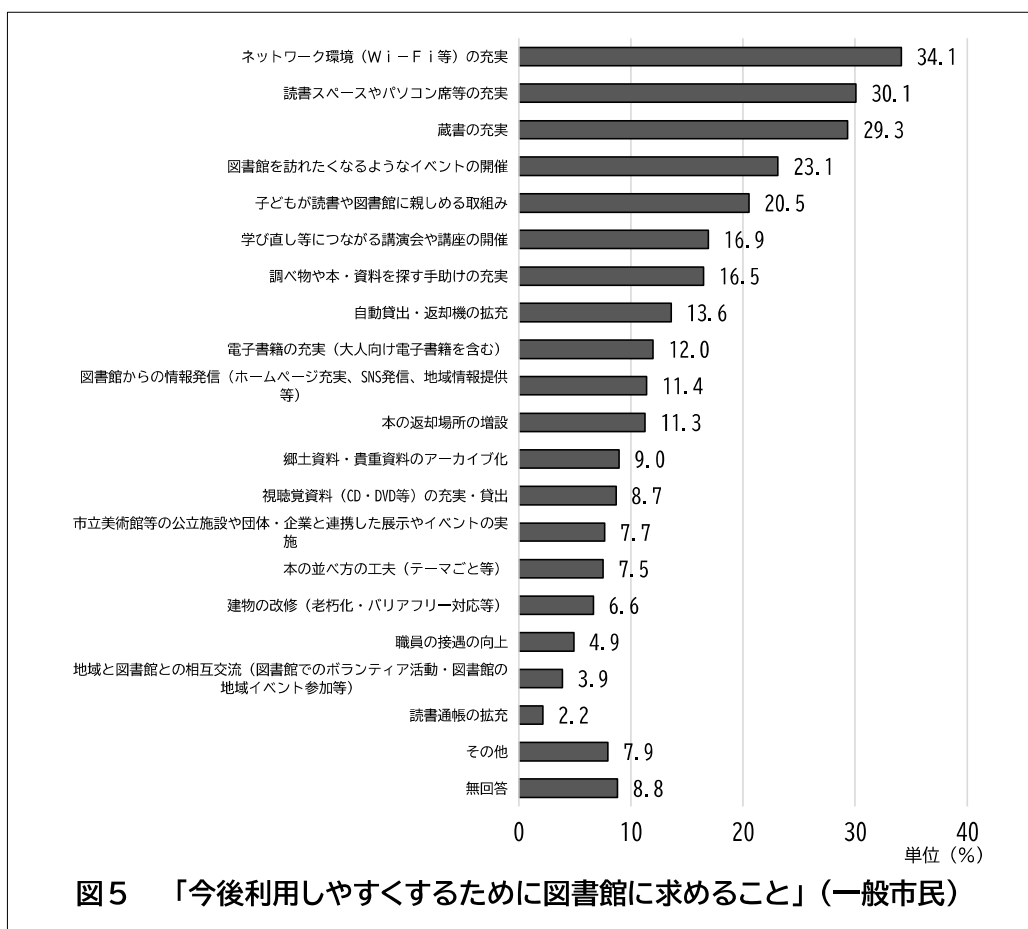


表1 「今後利用しやすくするために図書館に求めること」(対象者別)

	一般市民 (N=692)	図書館利用者 (N=822)	中高生 (N=951)
1位	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【236】	蔵書の充実【483】	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【614】
2位	読書スペースやパソコン席等の充実【208】	読書スペースやパソコン席等の充実【216】	読書スペースやパソコン席等の充実【404】
3位	蔵書の充実【203】	ネットワーク環境(Wi-Fi等)の充実【192】	若者が読書や図書館に親しめる取組み【189】
4位	図書館を訪れたいくなるようなイベントの開催【160】	図書館を訪れたいくなるようなイベントの開催【149】	蔵書の充実【164】
5位	子どもが読書や図書館に親しめる取組み【142】	子どもが読書や図書館に親しめる取組み【146】	調べ物や本・資料を探す手助けの充実【138】

※複数回答(最大5つまで選択)可の質問。【 】内の数字は、回答数を示す。

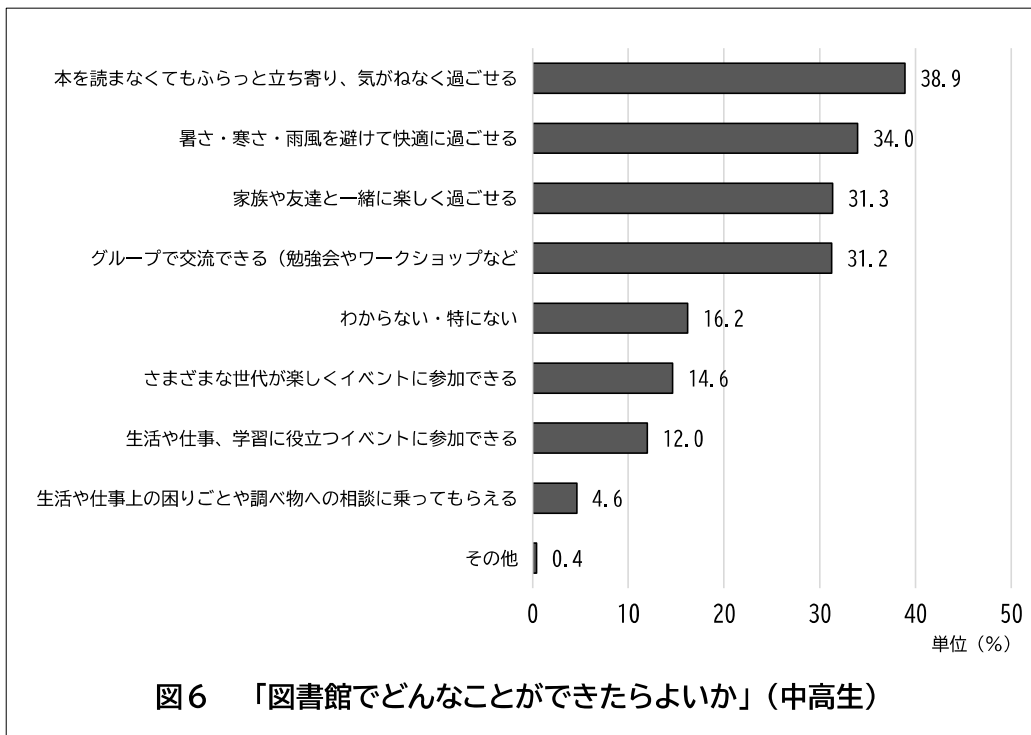


※グラフ内の数字は、回答者のうちその項目を選択した人の割合を示す。

表2 「図書館でどんなことができればよいか」(対象者別)

	一般市民 (N=692)	図書館利用者 (N=822)	中高生 (N=951)	小学生 (N=606)
1位	本を読まなくてもふらっと立ち寄り、気がねなく過ごせる【331】	本を読まなくてもふらっと立ち寄り、気がねなく過ごせる【312】	本を読まなくてもふらっと立ち寄り、気がねなく過ごせる【370】	家族や友達といっしょに楽しく過ごせる【243】
2位	さまざまな世代が楽しくイベントに参加できる【168】 生活や仕事、学習	生活や仕事、学習に役立つイベントに参加できる【241】	暑さ・寒さ・風雨を避けて快適に過ごせる【323】	本を読まなくてもふらっと立ち寄り、安心して過ごせる【171】
3位	に役立つイベントに参加できる【168】	さまざまな世代が楽しくイベントに参加できる【220】	家族や友達と一緒に楽しく過ごせる【298】	暑さ・寒さ・風雨をさけてかいてきに過ごせる【170】

※複数回答(最大3つまで選択)可の質問。【 】内の数字は、回答数を示す。



※グラフ内の数字は、回答者のうちその項目を選択した人の割合を示す。

### 3 北九州市立図書館の課題とこれからの図書館のあり方

図書館の現状や取り巻く状況等を踏まえて、北九州市立図書館の課題及びその概要を整理しました。

また、これらの課題を踏まえ、「これからの図書館のあり方」における考え方を表にまとめました。

課題	概要	「これからの図書館のあり方」における考え方
1 図書館の基本的な機能の強化・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料の収集・保存・提供の充実</li> <li>書架や読書スペース等のさらなる充実の必要性</li> </ul>	●誰もが利用しやすい
2 社会の状況等への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化への対応</li> <li>多様化する市民ニーズへの対応(読書バリアフリーを含む)</li> <li>施設の老朽化等への対応</li> </ul>	
3 図書館利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用方法の案内・利用サポート</li> <li>来館のきっかけづくりの工夫</li> <li>使いやすい施設(Wi-Fiの充実等)</li> <li>図書館の取組の情報発信</li> </ul>	
4 子ども・若者の読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの読書活動の推進</li> <li>図書館離れ、読書量減少への対応</li> </ul>	●市民の成長につながる ●市民が集まり交流する
5 市民や地域の学び・課題解決の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>「知りたいこと」「困りごと」への適切な対応</li> <li>市民にとって楽しく有意義な講座</li> <li>地域の情報の発信拠点</li> </ul>	
6 人が交流し、安心して過ごせる空間づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>居場所づくり</li> <li>本を読まなくてもゆっくり過ごせる空間づくり</li> <li>人々が交流する賑わいのある場所</li> </ul>	
7 市民との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の活躍(ボランティア活動等)の場の提供</li> <li>市民の意見を反映させた図書館運営</li> </ul>	●市民や地域に貢献する
8 地域との協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共施設・企業等との情報共有、連携</li> <li>地域の活性化</li> </ul>	

## 第2章 これからの図書館のあり方

### 1 基本的な方向性

図書館に寄せられる市民の期待と信頼に応えるために、これからの図書館のあり方における基本的な方向性として次の3つを提案します。

#### 《基本的な方向性》

- 方向性 1 誰もが利用しやすい図書館
- 方向性 2 人が学び、やすらぎ、つながる図書館
- 方向性 3 市民や地域と協働する図書館

### 2 施策の方針

#### 方向性 1 誰もが利用しやすい図書館

##### (1) 読書環境の整備

図書館利用者の満足度やアンケートの結果からも、蔵書の充実は常に図書館に求められている課題といえます。図書館には、社会情勢の変化や、読書や来館に困難がある方を含む多様な市民の多様なニーズを考慮し、図書資料の収集・提供の充実や配架の工夫に努めていただきたいと考えます。

また、これからの時代においては、図書館のインターネット環境を整えるとともに、電子書籍の充実や図書館が所蔵する貴重な資料のデジタルアーカイブ化などデジタル化への対応を進めていくことが求められます。読書バリアフリーの観点からも、来館・非来館を問わず誰もが読書機会を得られるよう、デジタルデータを利活用することが図書館には求められています。

あわせて、施設の老朽化やバリアフリーへの対応など施設・設備面の改善にも取り組み、誰もが利用しやすい読書環境の整備に努めていただきたいと考えます。

##### (2) 図書館利用者への支援

アンケート結果では、市民が図書館を利用しない理由として「借りたり、返したりするのが面倒」という回答が最も多くなっています。

そのため、図書館の利用に面倒や不便を感じる人にも気軽に図書館を使ってもらえるよう、わかりやすい利用案内リーフレットの作成、図書館職員等による利用者のサポート、来館しなくても利用できる電子書籍の案内などにより、図書館の利用支援に努めていただきたいと考えます。

また、図書館職員が館内を案内するガイドツアーや図書館でできることについての講座開催などにより、図書館の利用方法について理解を深めてもらうこ

とで、図書館利用の促進につなげていただきたいと思います。

### (3) 図書館からの情報発信

アンケート結果より、図書館を全く又はほとんど利用しない人は、一般市民の全ての年代で50%を超えており、特に20代では70%を超えることがわかりました。また、図書館では、資料の貸出以外にも様々なサービスを提供していますが、アンケート結果によると、講座・講演会、読書相談・調査相談(レファレンス)、読書バリアフリーや多文化共生に対応した資料の収集・提供などについては、市民にあまり知られていない状況です。こうしたサービスの内容を知っていただき、市民の利用につなげていくことが必要です。

また、図書館が所蔵する貴重な資料やイベント開催など図書館の魅力を伝え、市民に図書館に関心を持ってもらうことも大切です。

このため、図書館ホームページや広報紙(図書館だより)、館内掲示等を活用するとともに、図書館を利用していない人にも情報が届くよう、学校や関係団体等と連携するなどして、効果的な情報発信に努めていただきたいと思います。

## 方向性 2 人が学び、やすらぎ、つながる図書館

### (1) 子ども・若者の読書活動推進

子どもの表現力や情緒を育むためには、乳幼児の頃から読書に親しみ、生涯にわたる読書習慣の基盤をつくることが大切であると言われています。

アンケート結果を見ると、30代の市民は、子どもと過ごす目的で図書館に来ている人が多く、親子で読書を楽しむ場として図書館が利用されていることがうかがえます。引き続き、親子で楽しめるイベントや調べ学習の支援などにより、子どもの読書活動を推進する取組を充実させていただきたいと考えます。

一方、アンケート結果から、中高生や20代の市民には、図書館があまり利用されず、読書量も少ない人が多いことが見受けられました。図書館が若者のニーズに合う選書、図書館を活用した学習への支援、気軽に立ち寄れる雰囲気づくりなどに工夫を凝らし、若者にとっても魅力ある存在となるよう努めることで、若者の読書活動の推進につなげていただきたいと思います。

### (2) 市民・地域の学びと課題解決の支援

インターネットを使って誰でも手軽に情報にアクセスできる時代ですが、市民が大量の情報から必要とする正確な情報を得ることは容易ではありません。そのような中であって、インターネット以外の情報源も活用しながら、必要な情報を得られるよう市民を支援する図書館の役割は重要性を増していると言えます。

市民が抱える課題や知りたいことに対し、書籍・商用データベース・専門機関への問い合わせなど、様々な情報資源を使ったレファレンスサービスを通じて信頼できる情報を提供し、市民の学びや課題解決の支援に努めていただきたいと思います。

また、市民からのより高度なレファレンスに対応できるよう、職員研修等を積極的に行い、スキルの向上を図っていただきたいと思います。

さらに、アンケート結果により、市民の多くが関心を持っている、健康、子育て、自己能力アップ等については、テーマ別配架や企画展示等により、市民に情報が届きやすくなる工夫を行っていただきたいと思います。

### (3)「やすらぎ」と「にぎわい」の場づくり

アンケート結果を見ると、図書館は「静かに読書をしたり、調べものをしたりする場所」という従来のイメージを超えて、世代を問わず、安心してのんびり過ごせる場や友達や家族と楽しく過ごせる場であることが求められていると言えます。

そのため、図書館は居心地の良い空間づくりへの工夫や、親子で参加できるイベントの実施、学習・研究等のグループ活動を行う場の提供などにより、市民に様々な目的で来館してもらえるよう努めていただきたいと思います。そのことにより、市民の交流の機会にもつながり、安らぎとともに賑わいのある図書館になっていくことを期待します。

## 方向性 3 市民や地域と協働する図書館

### (1) 市民との協働

図書館には、市民の多様なニーズに対応したサービスを提供していくことが求められます。そのためには、図書館利用の有無にかかわらず、若者や高齢者、障害のある方等幅広い市民からの意見を把握し、図書館サービスに反映させるよう努めていただきたいと思います。

また、図書館には、社会教育施設として市民の自己実現・社会参加の場となることも求められています。現在も行われている読み聞かせや配架ボランティア等に加え、多様な市民に、それぞれの知識・関心や技能等にに応じて図書館運営に参画していただく機会を増やし、図書館が市民に開かれた、活気あふれる場となるよう努めていただきたいと思います。

### (2) 地域との協働

図書館には、市民の暮らしや学びに役立つ、地域に根差した情報を提供していくことが求められています。

これからも市内の文化施設、観光・イベント情報、スポーツチーム等の情報収集・提供を充実していくとともに、各施設のイベント等と連携した企画展示など効果的な情報発信に努めていただきたいと思います。

また、地元商店街等地域の団体と協働したイベントの実施や出前講座の実施など図書館外に積極的に出向くことにより、市民に図書館を知ってもらう機会を拡充するとともに、まちの賑わいづくりにも貢献していくことを期待します。